



センター通信

発行: 逗子文化プラザ市民交流センター(2019年9月1日 vol.109)

NEWS 最新のお知らせ

市民活動ススム講座

こんなに使える！市民交流センター活用法

市民活動とは、「自分たちのまちを自分たち自身でよくしよう」とする活動のことで市民交流センターはその活動を支援するための施設です。そもそも市民活動はなぜ必要なのか。参加の方法や、近隣市町の市民活動の事例や、上手な支援の受け方などを学びます。市民交流センター館内ツアーも行います。



日時 2019年9月20日(金) 18:30~20:30(開場 18:15)
 会場 市民交流センター会議室
 定員 先着30名(申し込み多数の場合キャンセル待ち)
 費用 500円
 対象 市民活動に興味のある方



講師：細矢岳彦氏
認定NPO法人
藤沢市民活動推進機構
理事・事務局次長

お申込み 9月1日(日) 9:00 から市民交流センター窓口および電話・FAX・メールで受付
 お問い合わせ TEL：046-872-3001 FAX：046-872-3003 E-MAIL：ac-center@zushi-psc.org

ランナーステーション ランステ が9月から再開します



ランステとは、
 ジョギングやウォーキングなどをされているみなさんに地下の温水プールの更衣室をお使いいただけるサービスです。着替え&荷物を預けて運動したら、シャワー&着替えをしてお帰りいただけます。 ※詳細は館内のチラシをご覧ください。

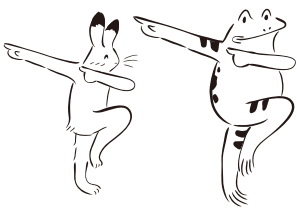
毎月第3水曜日は市民交流センターへ

あそびのひろば

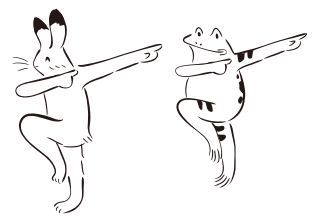
9/18(水) 10:00~11:30

事前のお申込みは不要です。お気軽にお越しください。





8月 講座ふりかえり



ホールオープナー「オルゴールを鳴らすカード作り」

開催日時 2019年8月4日(日) 10:00~15:20(全4回)
 参加者数 21組 52名
 講師 川瀬登さん(オルガニート愛好会)
 受講満足度 5.0点中 4.8点



オルガニートはなぜ音が出るのか?などその仕組みについて説明したあと、演奏するためのカードの穴のあけ方をレクチャーし、実際に演奏してどのような穴のあけ方をするとどのような音が出るのかをみんなで聴きました。

その後、参加者が絵を描いたり穴をあけたりして演奏するためのカードを作成。完成すると、子どもが自分の作ったカードでオルガニートを演奏し、自分の作った曲を目を輝かせて聴く様子を大人がスマートフォンで動画撮影し記念に残しました。それは、一緒に作業をして作り上げた喜びにあふれた微笑ましい光景でした。

参加者がオルガニート愛好会の方に積極的に質問したり、オルガニート談義に花が咲いたりオルガニートの音色に魅せられていたり会場は終始盛り上がり愛好会の方たちは、オルガニートを広めたい想いが伝わった事を、とても喜んでおられました。今回は、普段あまり触れることのない楽器に触れる貴重な体験を通して、子どもとおとなが共同作業を行うことで参加者同士の交流が深まったなごやかな講座になりました。



市民活動ススム講座

トイレから考える SDGs



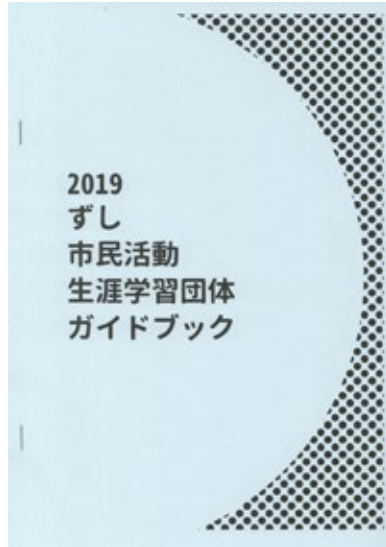
日時 2019年8月17日(土) 10:00~11:30
 参加者数 6名
 講師 太田祥歌さん(認定NPO法人日本八ピタット協会)
 受講満足度 5.0点/5.0点満点

講師をお願いした認定NPO法人日本八ピタット協会さまの活動をご紹介いただいたあと、今回のテーマである「SDGs」とはなにかをご説明いただきました。SDGsには全部で17の目標があり、お互いに関係しあっていることから、ひとつの取り組みでもいくつかの目標の達成にかかわっていることがわかりました。後半は、SDGsのゴール6「すべての人にとって、水と衛生施設の可用性と持続可能な管理を確実にすること」を目標として取り組んでいる、アフリカケニアでのトイレ整備事業を題材にしたすごろくゲームを行いました。すごろくのコマを進めながら、トイレ建設のために必要なお金や資材を集め、より多くのトイレを建設することを目指します。ゲームをすすめていく途中では、トイレ建設のために集めていた資金が使い込まれてしまったり(マスを戻る)、不衛生な環境でお腹を壊したり(1回休み)といったような困難にたくさん出くわします。また、SDGsの理解度を確かめるクイズが出題され、正解すると資材や技術、資金が手に入ります。すごろくゲームという親しみやすい入り口ながら、現地での活動の困難さや、トイレ整備の必要性が疑似体験できるプログラムでした。



速報!

「2019 ずし市民活動生涯学習ガイドブック」が完成しました！！



このガイドブックは、主に逗子市内を拠点に活動している様々な団体を広く紹介する為に毎年作成しているものです。本誌が皆さまにとって市民活動や生涯学習参加のきっかけになったり、情報共有の一助になればと願っています。本誌を作成するにあたりまして「市民活動・生涯学習団体登録シート」の提出にご協力をいただいた各団体の皆さまに改めて感謝いたします。編集スタッフ一同。

※2018年4月～2019年月に〈新規登録〉或いは〈登録情報の更新〉をしたか、ガイドブック作成にあたり送付しました〈登録情報確認依頼〉への返信（6月30日メ）を頂戴した団体を掲載しています。

9月1日は防災の日

NPOCLIP vol.47



9月1日は「防災の日」です。台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして、1960年に内閣の閣議了解により制定されました。

9月1日という日付は、1923年9月1日に発生し、10万人以上の死者・行方不明者を出した『関東大震災』に由来しています。気象庁の「気象統計情報」によると、台風の接近・上陸は8月から9月にかけて多く、制定の前年である1959年9月には、5,000人を超える死者・行方不明者を出した『伊勢湾台風（1959年台風15号）』が襲来しました。このことから、防災について意識を高める時期として設定し、全国各地で防災訓練が開催されます。とはいうものの近年は時期を問わず、自然環境の変化や予測できない地殻変動などからの災害が多くなっています。そのため、全国の災害ボランティアネットワークや社会福祉協議会の災害ボランティアセンターによるトレーニングが日常的に実施されるようになりました。

筆者は、神戸・東北・茨城・熊本と現場に入り、西日本では支援のサポートをさせていただきましたが、そこで見たものは一般の市民と市民組織の力強い動きでした。平時の際は、専門性を活かした市民活動をしている皆さんの知恵や工夫、コーディネーション力が発災以後大変重要になってきたことです。内閣府では、昨年「防災における行政のNPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック～三者連携を目指して～」を発行し、各県市町村への波及を目指しているようです。ここでいう三者とは、「政府・行政(レスキューなど)」と「常設されている防災グループ（社会福祉協議会、災害ボラなど）」と「発災時からの応援グループ（NPO、学校、企業、土業など）」を想定しています。

どこで何が起こるか、どう影響するのか、発災時のみならず復興への道のりを支援し続けるためにも、日ごろ関係を持っていることへの意識が重要です。この原稿を書いているときも長崎で豪雨との情報が熊本震災の際に生まれた「火の国会議」から連絡を頂いています。できることをできるときに進んで実行するためにも情報の流通ネットワークが必要です。

市民として、地域の防災訓練に参加することも大切です。皆さん、カレンダーにマークしましたか？(Te)

